

コメント

瀬山紀子 nseyama@gmail.com



- 公務非正規女性全国ネットワーク(はむねっと)
- 2021年3月スタート
- 非正規で、公務領域で働く人／働いた経験がある人たちの、任意のネットワーク

- 2021年春に「公務非正規労働従事者への緊急アンケート」を実施(<https://nrwwu.com/>)
- ホームページに調査報告を掲載しています

韓国の必須労働者保護に希望

- コロナ禍のなかで、人々の生活を支える仕事を「必須労働」と位置づけ、そうした仕事の担い手を、社会的に保護していただくとするコンセンサスがつけられたこと
- 社会的コンセンサスが、基礎自治体の側からの働きかけでつけられていった

不安定労働者に支えられる社会基盤

- 公共部門の仕事＝必須労働
- 必須労働の担い手の多くは非正規労働者
- 非正規労働者の多くは女性
- 社会の基盤が、不安定な支え手によってかろうじて支えられている異様な現状
- コロナでこの問題はより見える化

日本の非正規公務員

- 地方自治体 直接任用 112万人
- 国 15万人
- くわえて、指定管理・民間委託なども多数
- 職員の4割が非正規職員の自治体も
- 職種はさまざま。対人援助の仕事も多い
- 特徴:不安定雇用(有期雇用)・低待遇・ハラスメント環境

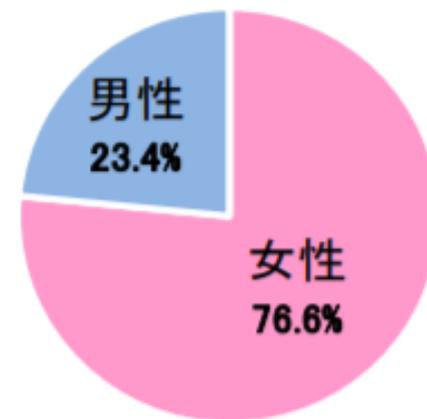
総務省

地方公務員の会計年度任用職員等の臨時・非常勤職員に関する調査結果
(令和2年4月1日現在)

会計年度任用職員

女性 476,403人(76.6%)

男性 145,903人(23.4%)



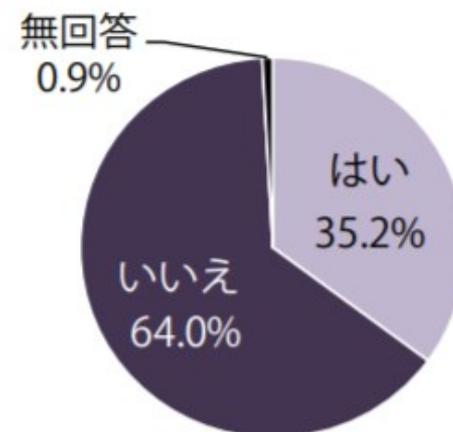
働き手の多くが女性である労働

- 根底に、“女性は、一家の稼ぎ手ではない”ため、低賃金でも、不安定でもよいだろうとする考え
- **女性に経済的自立をさせない社会制度**が存在

10. 主たる生計維持者であるか（単身世帯含む）

3人に1人が主たる生計維持者と回答した。

①はい	440人 (35.2%)
②いいえ	801人 (64.0%)
③無回答	11人 (0.9%)



公務非正規労働従事者緊急アンケート調査より

韓国の非正規公務員の正規化

- 韓国では、すでに、こうした**非正規公務員の正規化**を進めようという運動があり、実際にソウル市などで、非正規公務員の正規化が進められてきたということも別の機会に学びました
- こうした積み重ねの上に、今回の必須労働者保護の流れがあったのだろうと思います
- 必須労働者保護の問題は、**非正規労働者の権利回復や保護という問題**と重なり、それは結果として、**非正規の、そして、多くの非正規の働き手である女性の、尊厳回復**ということにもつながっていくと考えました

共通する非正規労働者の声

市役所カウンターで正職員はシェードを立て、感染防止されているが、私達は自前のマスクだけで何も防護物支給なく、毎日通常通り高齢者宅や病院へ訪問に行かされています。正職員は守られて、こういう仕事を選んだ私が悪いのかとさえ思います。(近畿、40代、女性)

Covid-19感染対策がほぼなされていないなかでの勤務であること、給与の低さ、やりがい搾取があたりまえという環境だが転職も難しく将来は常に不安。(関東、40代、女性)

正規職員と待遇の差があった。非正規職員には感染対策用品の配布が無く、自費で対応している。(東北・北海道、60代、女性)

正規職員と待遇の差があった、コロナに関して勤務・手当が影響を受ける事はなかったが、正規職員だけが在宅勤務可能になって職場が非正規だらけになり、その分電話対応などに追われ地獄を見た。(関東、60代、女性)

コロナのリスク対策があまりにもお粗末で呆れるばかりです。マスクも窓口以外では付けない職員もいました。非常勤はリスクが高すぎました。(関東、60代、女性)

時給900円未満で働いているのに、窓口で怒鳴られていても誰も助けてくれないので、とてもむなしく孤独な気分になります。自分はサンドバッグ役をやるために雇われた人間なんだなあとおもいます。(関東、18～29歳、女性)

労働に対する評価基準を変える

- 必須労働者保護の考え方は、労働に対する評価基準を変化させていくことにつながる
- これまで低い価値を置かれてきた労働に、価値を置くこと
- 労働の評価基準を変えていくことは、社会のなかにある、物事の評価基準に変更を加えていくことを意味する
- 私たちが何に価値をおく社会をつくっていくのか、ということが問われていく
- ケアワークなどの必須労働の担い手を保護すること = 働き手の尊厳を守ること = ケアを受ける側の尊厳を守ること
- 必須労働保護 = 働き手によって支えられている人々の暮らしを守ること

続く対立

- 日本では、いまでも、公務員と市民とが対立させられる構造が続いている(公務員バッシング)
- 公務職場のなかでも、正規と非正規との間に設けられた大きな格差が、職員同士の関係に亀裂をうんでいる
- 非正規同士も、不安定な任用・雇用が壁となり、安心して横につながれない状況に置かれている
- 非常にぎすぎすした、対立があちこちに出現している状況

対立ではなくつながりへ

- 働き手＝生活者
- 非正規労働従事者＝公共サービスの受益者
- はむねっと調査でも、働き手のなかから、公共サービスの受け手として、現状を憂う声があった
- 労働・社会保障のあり方を考え、まともな公共サービスを持続可能なかたちで提供できる社会のあり方、ビジョンを共有していくことが重要
- 韓国の希望ある運動から、今後も学んでいきたい